

今月のテーマ



Evening Seminar

ここまでできる在宅医療！シリーズ⑤

川崎ライフケアクリニック 菊岡 良孝先生 ご講演



6月29日 汐田総合病院会議室にて「ここまでできる在宅医療」をテーマに川崎ライフケアクリニック 菊岡 良孝先生にご講演をいただきました。菊岡先生は川崎駅にほど近い幸区にクリニックを構え、菊岡先生と非常勤医師3名（皮膚科・泌尿器・脳外科）でひと月に200~250件の訪問診療をされており、汐田の患者様も多くお世話になっています。お話の中で、強調されていたのは「退院前カンファレンス」の大切さです。医師・看護師からの医療情報だけでなくご家族についての情報共有がきちんとされていると、往診の導入が上手くいくそうです。また「家族指導」や「介護サービス」正しい利用は症状悪化を防ぐと、実感しているそうです。送り出す側の病院としても、在宅へ繋げていく自覚を持ち退院支援関わることが大切と感じました。クリニックではお看取りも対応されていますが、在宅看取りを希望していても、どたん場で家族が揺れて入院を希望され、その後やっぱり在宅で看取り希望となる事例もあるそうです。「正解は無い。家族が色々と考えて出した答えを尊重することを大切にしている」という先生のお言葉が大変印象的でした。感想では「先生の「伝えることは大事だが、伝え方も大事」の言葉、難しいことだがその通りだと思う。」等が寄せられました。



かわさき健康塾で脳卒中をテーマに講演

市民公開講座で医師の講演とリハスタッフによる体操教室

6/22 川崎ミュージアムで、川崎幸病院主催の市民向けの公開講座「かわさき健康塾・脳卒中まるわかりフォーラム」行われ、当院も回復期リハビリ病院として参加し、宮澤由美医師の講演と石毛里美PTがストレッチ教室を行いました。会場は150名の満席で入りきれずお断りが出たほどでした。川崎幸病院の神林医師による脳卒中の話に続き、宮澤医師のリハビリテーションの話では、最新のリハビリのトピックスに続き、汐田グループでの急性期〜リハビリ〜在宅へ流れの紹介。休憩を挟んだ後、幸病院PT西田さんの「脳トレ体操」に続き、当院PT石毛さんによる「血管をぐ〜んと若返らせるストレッチ」を行いました。体操では講師も含め全員で参加。参加者は笑顔で体操に取り組みまれていました。



メモリーカフェ



認知症にまつわる悩み、専門スタッフに相談できます♡

汐田総合病院 会場：ラウンジびゅあ（病院2階）

7月13日(木) 8月10日(木) 14:00-16:00

うしおだ診療所 会場：友の会汐田・向井町支部事務所

7月13日(木) 8月10日(木) 14:00-16:00



おすすめ書籍

これからの医療と介護のカタチ

超高齢社会を明るく未来にする10の提言  
佐々木淳 日本医療企画

世界で誰も経験したことのない、急流を下るような人口減少+超高齢化。これまでの価値観や地域のカタチでは、この激変していく社会環境に対応できません。それでは超高齢社会を明るく未来にするために、何が必要なのでしょう。か?医療界内外から注目を集める在宅医療のイノベーターが、医療・介護・地域づくりなどの専門家とともに、さまざまな角度から新しい時代にあるべきカタチを考えました。

10	超 高 齢 社 会 に す る	1	世界初の「長生きして良かった」と言える社会を完成させよう。
9		2	「人が生きることの全体」を支えるために地域と一体化し、多職種で最速な役割分担を実現し、新しい医療をつくりあげよう。
8		3	本質の「健康寿命」を延ばすために、「白文」の定義を見直そう。
7		4	認知症に対する最大の障礙である誤った固定観念を払拭しよう。
6		5	
5		6	専門職自身も生活者としての自分を大切に生き、人間理解を深めよう。
4		7	援助の本質を理解し、看取りを支える社会をつくりあげよう。
3		8	制度リセプターを高め、社会保障制度をしっかりと使いこなそう。
2		9	生活者が地域に必要な場やサービスの創造に取りかかろう。
1		10	ポジティブな生き方を支える産業を創造し、世界をリードしよう。



スタッフのひとこと

2018年度診療報酬改定の論議の第一ラウンドが終わろうとしています。改定の焦点はやはり7対1病棟の削減です。来年1月までにあと2ラウンドありますが、病床機能報告での「高度急性期機能以外の病棟」や「DPCⅢ群」、「10対1との併存」など様々な角度から切り崩しを進める方向性が鮮明になってきました。一方7対1病棟はより良い看護の提供、看護労働の軽減実現のため我々を含む広範な運動により勝ち取ったものです。7対1を削減すれば、2025年も医療が成り立っていくとの議論にくみしないように注視していきたいと思います。 M・O



うしおだ総合ケアセンター

We aim to build a non-discriminatory  
Community Care System that support all.